

これからの公共交通

～従来施策の妥当性の確認と今後の取り組みについて～

板橋区 都市整備部 都市計画課

I 公共交通に関する課題

～新型コロナウイルスの感染拡大を受けて～

II これからを考える際の視点

- ① 板橋区交通政策基本計画
- ② Withコロナ
- ③ 人の移動
- ④ 地域での移動に着目

III これからの区取り組み（事務局案）

- ① ハード面
- ② ソフト面
- ③ 様々な主体との連携

I 公共交通に関する課題

～新型コロナウイルスの感染拡大を受けて～

- 需要減少による減便・廃止
- 人口減少による交通網縮小

○ 不便地域対策

(板橋区: 相対的に公共交通サービス水準の相対的に低い地域)

○ 外出自粛による需要の減

(趣味娯楽やレジャーのための移動が大幅制限、日常の買い物も回数減や宅配の活用)

○ 在宅勤務、オンライン会議等働き方の変化による需要の減

(通勤需要、出張需要の大幅減少)

○ 住宅地での滞在人口の増

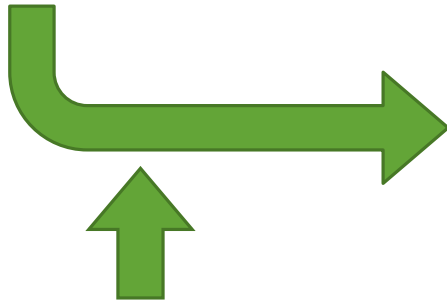
(オフィス街では課題だが、住宅地では潜在需要の増)

Ⅱ これからを考える際の視点

① 板橋区交通政策基本計画(令和元年度策定)

都市計画マスタープラン
『板橋区都市づくりビジョン』

東京で一番住みたくなるまち
と
評価されるまち



- 超高齢化社会に伴う高齢者等の公共交通での移動促進
- 安心・安全な道路空間づくりの確立
- SDG s の推進
- 持続可能な交通環境や脱炭素社会の構築
- ICTや自動運転、シームレスな移動(Maas)を始めとした先進技術の活用

『板橋区交通政策基本計画』

歩いて、乗って、住んでよし「人」が主役の交通都市
～みんなでめざす交通まちづくり～

基本方針 1

安心・安全に移動でき、
暮らせる

目標 1 都市生活を支える交通インフラの強化

- 歩行者重視の空間づくり
- 自転車の利用環境の向上
- 道路交通の円滑化
- 駅周辺的环境整備
- 物流の円滑化

目標 2 災害に強いまちを支える交通インフラの強化

基本方針 2

快適に移動できる

目標 3 鉄道やバス等の公共交通の利便性向上

目標 4 徒歩や自転車による回遊性の向上

目標 5 地域コミュニティにおける生活交通の充実

基本方針 3

持続可能な交通環境を
つくっていく

目標 6 ICTや先進技術を活用したシームレスモビリティの推進

目標 7 みんなでづくり、育み、支えあう交通環境の推進

- 地域公共交通での区民参加（交通まちづくり）
- バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進（もてなしの心、交通施設や心のバリアフリー等）

目標 8 脱炭素社会の実現に向けた交通への転換

- 公共交通等の利用促進
- 交通手段のシェアの推進

Ⅱ これからを考える際の視点

② With コロナ

様々な変化を受けて、『移動』についてもう一度考え直し、方向性を確認するタイミングと捉える

(1) 人の営みにおいて、移動はその基礎となるもの

⇒ 適切な感染予防対策のもとで、引き続き、安心・安全な移動を提供

(2) “移動を伴う生活” も “移動を伴わない生活” も

⇒ 多様な生活スタイルにより、人・モノの“移動”が変化

(3) 移動は、“目的” ではなく “手段”

⇒ 移動をする方に「質の高い移動」を提供すること、これが原点

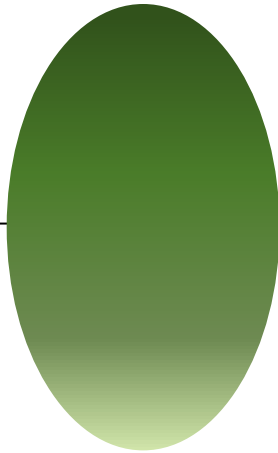
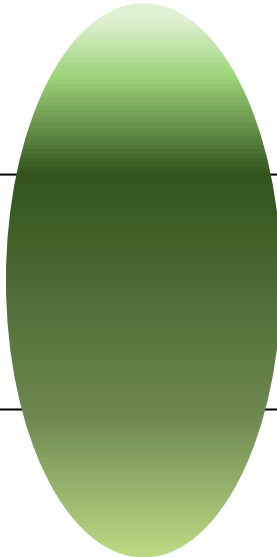
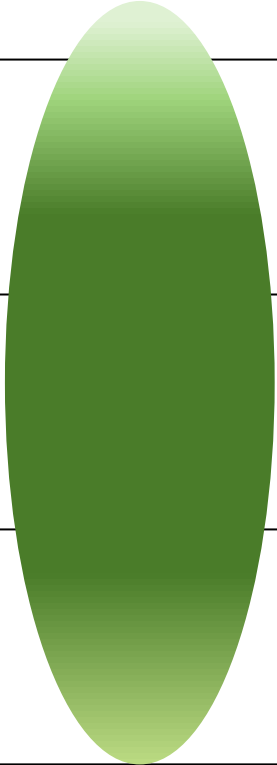
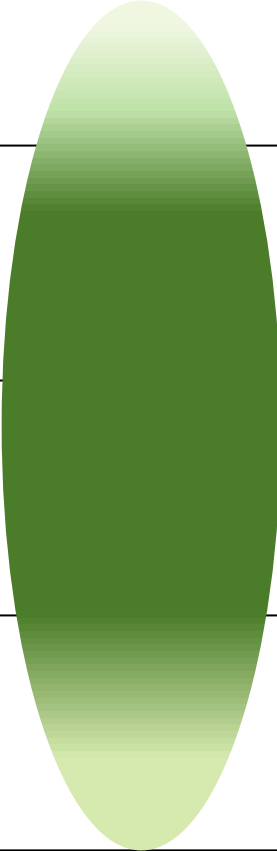
(4) 持続可能な“移動” としていく必要性

⇒ 交通利便性は、まちの発展・魅力にも密接な関係性

交通事業者、行政だけでなく、区民・利用者も含めた取り組みへ

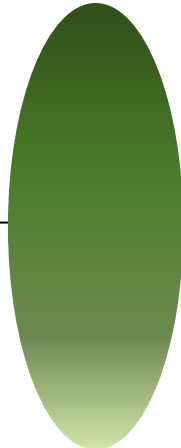
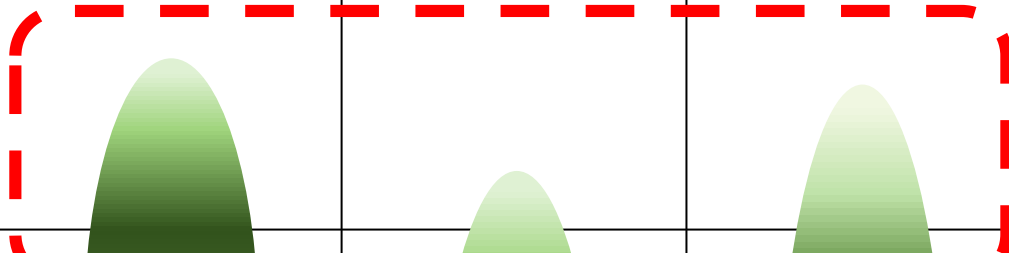
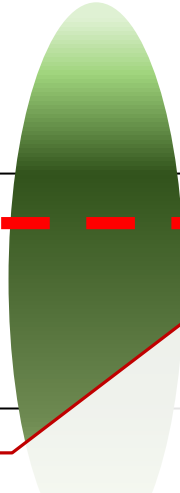
Ⅱ これからを考える際の視点

③ 人の移動（ターミナル駅に隣接する地域でのイメージ）

	生活に必要な移動			趣味・娯楽・ レジャー等の 移動
	買物・医療介護	通勤・通学	仕事・業務	
近 所 (自宅から数km)				
都心・副都心 (自宅から10～20km)				
近 隣 県 (自宅から20～100km) ～ 日帰り移動圏 ～				
遠 距 離 (自宅から100km以上) ～ 宿泊移動圏 ～				

Ⅱ これからを考える際の視点

④ 地域での移動に着目

	生活に必要な移動			趣味・娯楽・ レジャー等の 移動
	買物・医療介護	通勤・通学	仕事・業務	
近 所 (自宅から数km)				
都心・副都心 (自宅から10～20km)				
近 隣 県 (自宅から20～100km) ～ 日帰り移動圏 ～				
遠 距 離 (自宅から100km以上) ～ 宿泊移動圏 ～				

『地域での移動』に着目

在宅勤務などで住宅地の滞在人口の増加
テイクアウト需要から様々な飲食店が出店
身近に体験型の民間施設が数多く立地
板橋区の公共施設も魅力を磨いている
これらを結ぶ公共交通は板橋区の宝

Ⅲ これからの区取り組み（事務局案）

① ハード面

○ 駅を中心としたまちづくり

地域の核となる“駅とその周辺”の生活機能の向上は、まちの魅力づくりの第一歩と捉えて、
着実にその取り組みを進めている。

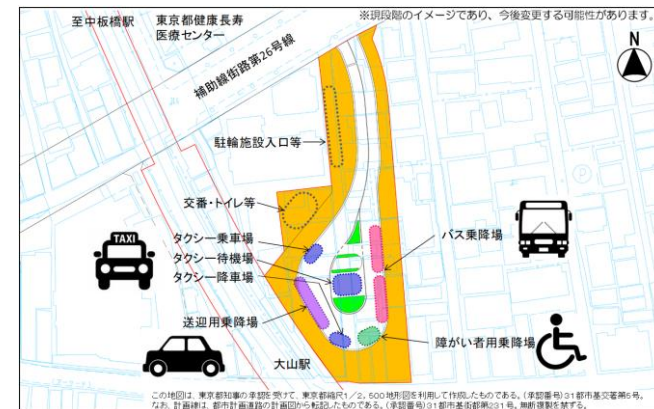
同時に、民間事業者による様々な投資を招き入れ、より厚みと深みのある魅力の創出を
目指していく。

○ 公共交通を利用しやすい環境づくり

（関係機関等との連携のもと）

- ⇒ 駅前広場などで多種多様な交通機関を使いやすく
- ⇒ 交通施設のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化
- ⇒ 広告付きバス停上屋の設置協力
- ⇒ その他、事業者との連携による利便性向上

大山駅 駅前広場の導入機能及びイメージ図



資料：板橋区「大山駅の駅前広場整備計画について」より一部抜粋

Ⅲ これからの区取り組み（事務局案）

② ソフト面

○ 公共交通を知ってもらう・乗ってもらう取り組み

自宅の最寄駅・路線の知識はあっても、数駅も離れると未知の世界になる。

便利な交通環境は、住んでる人全員の財産でもあり、上手に活用してもらいたい。

【その１】 “使えるバス路線図”の作成、露出機会の拡大

- ・「いたばしぐらしガイド2021」への掲載の再開
- ・「観光いたばしガイドマップ」への掲載の開始（2022年4月～）
- ・ “ ” の配布場所の拡大（協議中）

【その２】 区の公共交通機関の便利さの訴求

- ・ シティプロモーション活動において、交通利便性を最前面で訴求
- ・ 電車＆バスによる“交通ネットワーク”の認知拡大

Ⅲ これからの区取り組み（事務局案）

③ 様々な主体との連携

○ 多様な移動機会の創出

例) 地域・地元の魅力あるコンテンツの再認識と、移動機会への結びつけ

・ まちの歴史・ストーリー

・ 民間施設

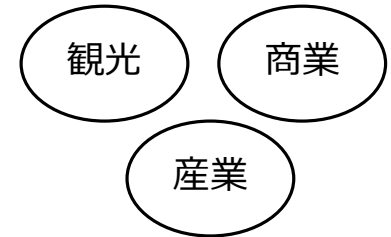
{ 話題の店舗や商業施設
体験型の施設

・ 公共施設



・ 移動に関する情報

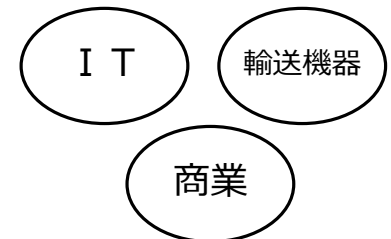
{ 交通手段
経路



○ 新技術の取り込みにより、便利さの最大化

“スマートフォン”におけるスマートな情報入手

⇒ 直感的に知りたい情報が手に入り、活用できる



自動運転や新たな乗り物などによる、様々なニーズへの対応